

令和4年度卒業式覚書

3月1日（水）10時より相馬高校の体育館で行われた。普通科第75回で111名、理数科第52回で36名、計147名の卒業生である。

正にコロナ禍の下で丸々3年間の高校生活を過ぎた学年である。卒業生たちは前後左右1メートルの間隔をとって整列し、出席保護者は今回も1名に限定された。



瓜生康弘校長先生の式辞

瓜生学校長の式辞のあと、クラス担任が呼名し各クラスの代表に卒業証書が手渡された。

県の大沼博文教育長からはなむけのことばがあり、来賓は3名のみ、県議会議長代理で地元選出の荒秀一（昭和45年卒）県議、馬城会長、土屋大典（平成元年卒）PTA会長が祝辞を述べた。



答辞を述べる田中愛梨さん

2年生の小谷津陽色さんからの送辞のあと、田中愛梨さんの答辞があった。

田中さんは持った原稿に一度も視線をやることなく、前を見て、凛とした声で、3年間に次々と訪れた困難と克服、貴重な大切な記憶、そして感謝の念をしっかりと伝えた。

素晴らしい！立派だった。

校歌斉唱は、吹奏楽部が別室で演奏しそれを会場に流した。

退場時には、別室の吹奏楽部の演奏に合わせて、新しい旅立ちへの応援の手拍子の中を最後のホームルームへと戻っていった。



保護者や先生方の拍手の中の旅立ち